

第1学年7組 道徳学習指導案

平成28年2月5日(金) 第5校時
指導者 教諭 玉川 敏史

1 主題名 自主的な判断 内容項目1-(3)

2 資料名 幻のゴール(自作資料)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、「内容項目1-(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ」ことを主なねらいとしている。自主的に考える際には、集団や社会とのかかわりにおいて、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、判断することが大切である。

現代はインターネットの普及によって、様々な情報が瞬時に手に入る情報過多の時代であり、深く考えること無く答えを見付けることができてしまう。また、LINEやTwitterなどで、相手の気持ちを考えること無く、無責任で勝手な意見を投稿する人によるトラブルも起きている。

中学校においても、多くの生徒が携帯電話やスマホを持つようになってきている。中には深く考えることなく、使用することにより、トラブルが発生し、いじめに発展することもある。「携帯・インターネット安全教室」などで、使い方の注意は度々行っているものの、なかなか浸透しないのが現状である。特に、中学校1年生の時期は、自己中心的なものの見方や考え方で、自分と異なる考え方を認めることできない傾向が見られる。

選挙権年齢が18歳以上となり、数年後には社会人として投票することになる。自主的な判断とは、決して自分勝手な言動では無く、周りに対して常に誠実であるよう努め、自分の考えを発言し行動することである。また、その結果に対する責任も負わなければならないことである。そのことに気付かせ、自ら深く考え、主体的に行動できる生徒を育てていきたい。

(2) 生徒の実態

中学校1年生のこの時期になっても、日頃の言動には幼い面が見られる。また、周囲に影響を受けやすく、自分で判断できずに他人のせいにしたり、言い訳をしたりする生徒もいる。トラブルが起こる度に指導をするが、自己中心的なものの見方や考え方により指導が入りにくい現状となっている。

思いやりをもち、主体的に行動できる生徒を育てるためには、日頃から「自分だったらどうするか」「周りの人はどんな思いか」を考えさせる場面を作り、生徒の見方や考え方を変えていくことが大切であるという思いから、本主題を設定した。

(3) 資料について

本題材は、2002年の高校サッカー岡山県大会決勝での出来事である。当時は、「世紀の誤審」と騒がれ、大きなニュースになり、様々な意見が飛び交った。「天声人語」にも取り上げられ、過去に何回か授業で取り上げたことがある。生徒にとっては、かなり印象深い内容だったので、道徳的实践意欲を高めることができた。今回は、選手の視点以外にも目を向け、考えさせることで、「自主的な判断とは何か」に気付くことができるように、「さいたま市道徳資料はばたき」「朝日新聞『天声人語』2003年2月13日」を参照し、資料を作成した。

4 指導のねらい

○自主的に考え、判断し、その結果に責任をもとうとする心情を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ○評価
導入	○何かを選ぶのに悩んだことはないか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・どの部活に入ろうかな…。 ・どのTV番組を見ようかな…。 ・宿題が先かゲームが先かな…。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人はいろいろな場面で選択をしていることに気付かせる。
展開	<p><資料わたし></p> <p>○資料の範読を聞く。</p> <p>○内容を整理、確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・審判の誤審によって、勝敗が逆転し、全国大会出場の夢が叶わなかったんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その時の状況が分かるように補足説明しながら範読する。 ・思ったことを自由に書かせる。 ・自分と同じ考えや異なる考えを聞くことができるように、数人を指名する。 ・選手の気持ちを考えながら自分に置き換えて考えさせる。 ・出場するか辞退するか拳手をさせ、何人かを指名する。 ・審判、相手チームの選手や他の関係者の心情にも触れる。
	<p>1 この記事を読んだ自分の考えを書いてみよう。</p>		
	<p>○発表する。</p> <p>○全国大会出場決定後の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・負けた方がかわいそう。 ・審判が悪い。 ・ルールだから仕方がない。 ・全国大会に出場することになった水島工業の選手たちは悩んだらうな。 	
	<p>2 全国大会に出場することを決めた選手、辞退することを決めた選手は、それぞれどんな考えから判断したのだろう。また、自分だったら、出場しますか、辞退しますか。</p>		
<p>○話し合う。</p> <p>○発表する。</p> <p>○審判や監督の話、周囲の反応を聞く。</p>	<p><辞退を決めた選手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のチームに申し訳ない。 ・ゴールされたのだから負けた。 ・全国大会出場がすべてではない。 <p><出場を決めた選手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール違反はしていない。 ・全国を目指してがんばってきたのだからあきらめられない。 ・審判のミスだから、自分たちに責任はない。 <ul style="list-style-type: none"> ・出場する。 ・辞退する。 ・わからない。 		

	○初めの自分の考えを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰も悪くない。 ・勝手な意見は言えない。 	○物事の一面だけを見ての無責任な意見はよくないことに気付いたか。(観察)
	3 物事を選択するときに何が大切だと思いますか。		
	○発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考える。 ・その結果どうなるか。 ・正しいか正しくないか。 ・相手のことを考えているか。 	○自主的に判断し、行動するには何が大切か気付いたか。(記述)
終末	○両校の選手のその後について知る。		<ul style="list-style-type: none"> ・両校の選手のその後について話をする事で、価値への印象を深め、実践への意欲付けを図るようにする。

【幻のゴール】

2002年11月10日、全国高校サッカー県大会岡山県決勝戦で、そのシーンは起こった。昨年全国ベスト8の名門作陽高校と県内では実力校の水島工業高校の決勝戦は1-1の白熱した試合展開で延長戦に突入する。当時、岡山県では、延長戦でどちらかが1点を先に決めた時点で試合終了となるVゴール方式を採用していた。

その延長戦の最中、作陽高校の選手が放ったミドルシュートは、ゴールの中の支柱に当たり跳ね返ってくるほどの強烈なビューティフルゴールだった。勝利を決定付ける、十分なものであった。喜ぶ、作陽イレブン、監督、スタッフたち。ゴールと判定し、センターサークルへ駆ける副審、見事なVゴールを決められ、うなだれる水島工業高校のDFたち。しかし、水島工業高校のGKは、跳ね返ってきたボールを無意識にキャッチした。普通なら無駄な行為だ。なにしろ、ボールはギリギリという微妙な範囲ではなく完全にゴールを割っていて恐らく100人にVTRを見せれば、100人とも、そのゴールを認めるであろうものだったからだ。恐らく、GKは見送ったボールが跳ね返ってきたので、ゴールポストに当たったと思い無我夢中でキャッチしたのだろう。それは仕方ない。

しかし、問題はその後が起こった。主審はゴールを認めず、水島工業高校にプレー再開を促した。戸惑いながらもプレーを再開する選手たち。その結果、延長戦でも、決着はつかず、PK戦の結果5-3で作陽高校は涙をのんだ。

全国大会出場を辞退するべきかどうか、水島工業高校の選手や先生は悩んだ。結局出場することにしたが、ある主力選手は「試合は負けでした。」と言って全国大会に出なかった。